

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	西東京市児童発達支援センターひいらぎ			
	児童発達支援事業			
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	114名	(回答者数)	79名
○従業者評価実施期間	令和7年1月11日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	25名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月5日			

	保育所等訪問支援事業			
○保護者評価実施期間	令和7年1月8日		～	令和7年2月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～	令和7年1月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年9月30日		～	令和7年2月12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4園	(回答数)	4園
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達に心配や課題のある子どもとご家族にタイムリーな支援をしている。	子どもの様子や保護者の悩みに合わせ、専門の相談員が対応している。 言語聴覚士、理学療法士、作業療法士及び心理士等の専門療育職員が、タイムリーに子どもの発達段階のアセスメントを行い、支援の方向性を保護者と一緒に考えている。	ひいらぎの相談後、タイムリーな支援ができるように、児童発達支援事業と並行して、ひいらぎが独自に行っているフォローグループ事業を拡充する。
2	家庭の子育てにつながる発達支援をしている。	保護者の心配や不安に寄り添い、継続的な相談体制を提供している。 市民講座を開催し、市民のニーズに合わせた療育に関わる情報を提供している。 ペアレントメンター事業の利用等を通して、子どもの発達の過程で生じる悩みや不安に寄り添っている。	保護者が就学について理解し、準備を進められるよう、就学相談や特別支援学級・特別支援教室の説明会、また、年長児向け説明会等を実施する。
3	関係機関と連携し、地域のネットワークの中での支援をしている。	市の関係部署、幼稚園・保育園、障害児通所支援事業所、保護者の会等、市内の発達支援に関わる機関が意見交換を行う場として、「ステップアップ・ミーティング」を定期的で開催している。また、ひいらぎや地域で行う発達支援の取り組みについて、相互理解を進め、連携を強化している。	有識者による事業所の訪問や、事例についてのスーパーバイズ・コンサルテーションを行う。 地域のインクルージョン推進に向けて、幼稚園・保育園への定期的な巡回訪問や出張講座を行う。 学童クラブを利用している子どもについて、訪問等を行い、関わり方の助言を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務が増加し、役割分担がしにくくなっている。 また、マニュアルが整備できていない部分がある。	センターとして地域の中核的な役割を果たすために、これまで以上の業務が求められているため。	業務の洗い出しを行うとともに、マニュアルの整備をする。
2	療育内容について、各クラス単位で詳細な打ち合わせがされているが、それを全体で共有する仕組みや次年度に有効なプログラムを残していく仕組みが弱い。	センターとしての業務が多岐にわたるため、全職員が揃って会議や打ち合わせをする時間が取れていない。	会議のフォーマットを細かく設定し、報告すべき課題を明確にする。 全職員がいろいろな事業について理解を深め、参画できるような仕組み作りを行う。
3	人材育成の仕組みが体系化されていない。	療育支援等専門分野の人材育成のための各種研修や勉強会は行っているが、体系化されていない。	人材育成のために専門職員やスーパーバイズを活用し、外からの視点を取り入れる。 実情に合ったキャリアパスを作成する。